

PRICE SETTING SYSTEM

Patent Number: JP57086974
Publication date: 1982-05-31
Inventor(s): OTSUKA TETSUO
Applicant(s): CASIO COMPUT CO LTD
Requested Patent: ☐ JP57086974
Application Number: JP19800161923 19801119
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F15/21 ; G07G1/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To vary and display the price of an article whose price varies frequency like perishables, by detecting the time of price variation preset at a center side.
CONSTITUTION: Electronic registers ECR1-ECRN installed at counters as terminal equipments transmit and receive data to and from a data collector DCR through a transmission line L. The data collector DCR performs retrieval at intervals of one minute, and consequently the contents (current time) of a timer buffer TM are compared with the contents (price variation time) of the storage area of a memory 7 specified by the register X, thereby sending the contents (varied price) of the storage area of the memory 7 to the prescribed electronic register X at the variation time. Other electric registers X set the contents (varied price), transmitted from the data collector DCR, in its storage area as a new price.



Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57--86974

⑮ Int. Cl.³
G 06 F 15/21
G 07 G 1/00

識別記号

庁内整理番号
7165-5B
8109-3E

⑯ 公開 昭和57年(1982)5月31日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

① 価格設定方式

② 特 願 昭55-161923

③ 出 願 昭55(1980)11月19日

④ 発 明 者 大塚哲夫

東京都西多摩郡羽村町栄町3丁

⑤ 出 願 人

目2番1号カシオ計算機株式会社
社羽村技術センター内
カシオ計算機株式会社
東京都新宿区西新宿2丁目6番
1号

⑥ 代 理 人 弁理士 山田靖彦

明 細 書

1. 発明の名称

価格設定方式

2. 特許請求の範囲

時計回路と、価格変更時刻及び変更価格を記憶する記憶手段と、前記変更時刻と前記時計回路で得られた時刻とを比較する比較手段と、この比較手段による比較の結果前記変更価格をターミナル装置に送出する手段とを具備し、前記変更価格をターミナル装置に設定することを特徴とする価格設定方式。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、ターミナル装置に設定されている価格を変更する場合に、変更価格をセンター側からターミナル装置に送信して設定する価格設定方式に関する。

一般に、電子レジスタにおいて、日常業務に買上げられる商品の単価を設定する場合には、例えば、コントロールスイッチをプリセットモードに切替えた後、商品毎に金額キー、部門別キー等を

操作することによって行っていたが、鮮食食品等のように頻繁に価格が変更される商品においては、一日に何度も価格を設定し直さなければならず、オペレーターにとって大きな負担となっていた。また、複数台の電子レジスタ内のプリセット単価を同時刻に変更することは困難であった。

この発明は、前記事情に基づいてなされたもので、その目的とするところは、ターミナル装置に設定した価格を変更する場合に、センター側において、価格変更時刻を検出すると共に、この検出に伴って変更価格をターミナル装置に送出することにより、変更価格の設定を自動的に行うことができると共に価格変更の時点を正確に行うことができる価格設定方式を提供することにある。

以下、この発明を図面に示す実施例に基づいて具体的に説明する。第1図において符号 ECR(1)~ECR(N)は、ターミナル装置として各売場に配置された電子レジスタであり、これら各電子レジスタ ECR(1)~ECR(N)は、伝送ラインLを介してデータ収集装置 DCR との

即ちデータの送受信を行う。なお、データ収集装置DORは、通常、電子レジスタとして使用されるものである。

前記データ収集装置DORは第2図に示すように構成されている。なお、各電子レジスタEOR(1)～EOR(N)は、データ収集装置と略同様に構成されているので、その説明は省略する。図において符号1はCPUであり、このCPUはコントロールバスCBを介して入力制御部2、表示制御部3、印字制御部4、伝送制御部5、時計回路6およびメモリ7に対してR/W(リード/ライト)信号、チップ指定信号を出力し、また、印字制御部4、伝送制御部5、時計回路6からはコントロールバスCBを介して各種の制御信号が入力される。また、CPU1はアドレスバスABを介して各制御部2～5、時計回路6及びメモリ7に対してアドレス信号を出力する。さらに、CPU1は入力制御部2に備えられている入力バッファINからのデータがデータバスDBを介して入力され、また、表示制御部3に備えられている

表示バッファDI及び印字制御部4に備えられている印字バッファPRへデータバスDBを介して夫々データを出し、さらに、データバスDBを介して時計回路6に備えられている時計バッファTMおよびメモリ7との間においてデータの授受を行う。

前記入力制御部2は、入力部8にタイミング信号KPを出力し、そして、入力部8においてキー操作が行われた際にタイミング信号KPが操作キーに宛てて選択され、キー入力信号KIとして入力バッファINに対して出力する。また、前記表示制御部3はディジット信号DG及び表示バッファDIのデータをデコードしたセグメント信号SGを表示部9に対して出力し、表示部9に数値データ等を表示させる。また、前記印字制御部4には印字部10に備えられている印字ドラム(図示せず)の印字位置信号TPが入力されており、そして、印字制御部4は印字位置信号TPと印字バッファPR内のデータとの一致によつて生ずる印字駆動信号HDを印字部10に対して出力する。

なお、印字部10は印字駆動信号HDに従つて数値データ等を記録用紙に印字する。また、伝送制御部5は伝送ラインLを介して各電子レジスタEOR(1)～EOR(N)との間でデータの送受信を行う。また、時計回路6には基準クロック信号を計数して時、分の時刻情報を得るもので、この時刻情報は時計バッファTMに保持される。

第3図は、データ収集装置DORを構成するメモリ7の一部を示したもので、その行アドレスが1～Nと対応するN個の記憶領域を有している。そして各記憶領域には価格変更時刻を記憶する領域T(1)～T(N)と、電子レジスタに変更価格を設定する場合に、その設定対象となるメモリのアドレスを指定する対象メモリナンバを記憶する領域M(1)～M(N)と、変更価格を記憶する領域P(1)～P(N)と、電子レジスタに設定される変更価格を送出したか否かを指定する送出フラグを記憶する領域S(1)～S(N)を有している。なお、記憶領域S(1)～S(N)の送出フラグが「1」に設定されている場合には、

変更価格の送出前であることを指示し、また、送出フラグが「0」に設定されている場合には、変更価格の送出後であることを指定する。

また、第4図は、各電子レジスタEOR(1)～EOR(N)のメモリ(データ収集装置DORのメモリと同様である)の一部を示したもので、その行アドレスがJ～Kと対応するK個の記憶領域を有している。そして、各記憶領域にはPLU(プライム・マルチ・アップ)キー対応するPLUナンバを記憶する領域L(1)～L(K)と、価格を記憶する領域R(1)～R(K)と、売上個数を記憶する領域Q(1)～Q(K)とを有している。

次に、前記実施例の動作について説明する。データ収集装置DORにおいては、1分毎に第5図のフローに従つた動作が実行される。すなわち、ステップS1において、CPU1に備えられたXレジスタに「0」が書き込まれ、その内容がクリアされる。なお、Xレジスタはメモリ7の1～Nの行アドレスを指定するインデックスデータを記憶

するものである。次いで、ステップS2の実行に移り、Xレジスタのインデックスデータに「1」が加算され、この加算結果がXレジスタに書き込まれ、インデックスデータが更新される。次いで、ステップS3の実行に移り、Xレジスタの内容がNであるか否か、検査すれば、メモリ7の1~7の行アドレスで指定される全ての記憶領域が指定されたか否かが判断され、否と判断された場合には、次のステップS4に移る。このステップS4においては、Xレジスタで指定される記憶領域S(X)の内容(送出フラグ)が「1」か「0」かの判断がなされる。ここで、「0」であると判断された場合には、対応する記憶領域P(X)の内容(変更価格)を電子レジスタ側に送出した後であることが判明する。この場合、ステップS4に戻り、前述のステップS2~S4が繰り返して実行され、そして、送出フラグ「1」が記憶されている記憶領域S(X)が検案された場合には、次のステップS4に移る。このステップS4においては、時計バッファTの内容(現在時刻)とXレジスタで指定される

記憶領域T(X)の内容(価格変更時刻)との比較が行われ、 $T \leq T(X)$ と判断された場合には、ステップS4に戻り、前述のステップS2~S4が繰り返して実行され、そして、 $T \geq T(X)$ と判断された場合、すなわち、現在時刻が価格変更時刻以上となつた場合には、次のステップS4に移る。このステップS4においては、価格変更コマンドC、レジスタXの内容で指定される記憶領域M(X)の内容(対象メモリアドレス)および記憶領域P(X)の内容(変更価格)を伝送バッファTRに転送した後、所定電子レジスタに送出される。次いで、ステップS5の実行に移り、タイマとして用いられるYレジスタに「0」が書き込まれ、その内容がクリアされ、次のステップS4に移る。このステップS4においては、所定電子レジスタからデータの受信が可能であることを知らせるACK信号が送信されたか否かが判断され、ACK信号無しと判断された場合には次のステップS4に移る。このステップS4においては、Yレジスタの内容に「1」が加算され、その加算結果がYレジスタ

に書き込まれる。次いで、ステップS10の実行に移り、Yレジスタの内容が「T」とあるか否か、すなわち、ステップS4の実行後、時間「T」を経過したか否かの判断がなされ、経過していないと判断された場合には、ステップS4に戻り、前述のステップS2~S10が繰り返して実行される。そして、ステップS4において、ACK信号有りと判断された場合には、次のステップS11に移る。このステップS11においては、記憶領域S(X)に送出フラグ「0」が書き込まれる。なお、ステップS4において、YESと判断された場合には、前述のステップS4~S11の実行はなされない。

他方、電子レジスタにおいては、第6図のフローに従つた動作が実行される。すなわち、ステップS21において、データ収集装置DCR側から送信される価格要求コマンドC0を受信したか否かの判断がなされ、受信した(YES)と判断された場合には次のステップS22に移る。このステップS22において、CPU内のYレジスタの内容が「0」か「1」かの判断が実行される。なお、

Yレジスタは一人の顧客に対する登録処理が終了し、レシートが発行された後「1」が設定され、また、「登録中」であるときには「0」が設定されているもので、ステップS22において、Yレジスタの内容が「1」であると判断された場合には、次のステップS23に移る。このステップS23において、データ収集装置DCR側からACK信号が送出される。次いで、ステップS24の実行に移り、第4図に示される各記憶領域のうち、データ収集装置DCRから送信されてくる対象メモリアドレスM(X)によつて指定される記憶領域L(M(X))、 $R(M(X))$ の内容が退避される。この退避されたデータは変更時刻前までの売上データとして記憶される。次いで、ステップS25の実行に移り、データ収集装置DCRから送信されてくる記憶領域P(X)の内容(変更価格)が記憶領域R(M(X))に転送され、その記憶領域R(M(X))に新たな価格が設定され、また、記憶領域Q(M(X))の内容に「0」が書き込まれ、売上個数がクリアされ、次のステップS26に移る。

他方、ステップS21において、価格要求コマンド00を受信しない(N0)と判断された場合には、ステップS27の実行に移り、データ収集装置DCRから価格変更コマンド00以外の他のコマンドを受信したか否かの判断がなされる。ここで、他のコマンド有り、例えば、該収集データの転送要求コマンドを受信したと判断された場合には、次のステップS28の実行に移り、そのコマンドに従った、所定の処理が実行され、次のステップS29の実行に移る。また、ステップS27において、他のコマンド無しと判断された場合、およびステップS22においてレジスタの内容が「0」と判断された場合にも、次のステップS28の実行に移る。

このステップS28において、入力パツパIの内容が、レジスタに転送される。次いで、ステップS29の実行に移り、レジスタの内容が「0」であるか否か、すなわち、キー入力されたか否かの判断がなされ、レジスタの内容が「0」、すなわち、キー入力無しと判断された場合には、

ステップS21に戻る。また、レジスタの内容が「0」ではない、すなわち、キー入力有りと判断された場合には、次のステップS30に移る。このステップS30において、操作キーが取引別キーであるか否かの判断がなされ、取引別キーである(YES)と判断された場合には、次のステップS31に移る。このステップS31において、取引別処理が実行され、レシートが発行される。次いで、ステップS32の実行に移り、一人の顧客に対する登録処理が終了したことを指定するために、レジスタに「1」が書き込まれ、ステップS33に戻る。また、ステップS33において、取引別キーではない(N0)と判断された場合には、次のステップS34に移る。このステップS34において、操作キーに対応する買値、売値、登録処理が実行され、次のステップS34に移る。このステップS34の実行において、同一顧客の登録中であることを指定するために、レジスタに「0」が書き込まれ、次のステップS31に戻る。

しかし、第3図に示すメモリ7の記憶領域に

第7図に示す内容、すなわち、価格変更時刻(17時00分)、変更価格(300円)が記憶されている場合において、第8図(1)に示すように、変更時刻前(16時52分)には、変更前の価格(350円)、また、第8図(2)に示すように変更時刻後(17時10分)には、変更価格(300円)がレシート用紙に印字される。

前述のように、価格変更は、顧客別登録終了後に行なわれるので、同一顧客の登録中に、価格が変更されることはない。また、データ収集装置は通常ターミナル装置として使用されるが、この場合、価格変更のためのキー操作を行なわなくても自動的に変更価格を送出することができるので、客を持たせるようなことはない。

なお、前記実施例においては、価格変更を顧客別登録終了後に行なうようにしたが、この発明はこれに限らず、価格変更時刻になつた時に、行なうようにしてもよい。また、前記実施例においては、ターミナル装置として、電子レジスタに適用した場合を示したが、この発明はこれに限らない。

この発明は、以上詳細に説明したように、ターミナル装置に設定した価格を変更する場合に、センター側において、価格変更時刻を検出すると共に、この検出に伴つて変更価格をターミナル装置に送出することにより、変更価格の設定を自動的に行なうことができると共に、価格変更の時点を正確に行なうことができる。

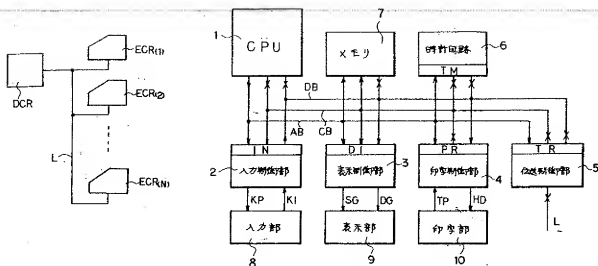
4. 図面の簡単な説明

図面は、この発明の一実施例を示し、第1図はターミナル装置として電子レジスタに適用した場合のデータ収集システム構成図、第2図はデータ収集装置の概略システム構成図、第3図はデータ収集装置のメモリの一部を示した図、第4図は電子レジスタのメモリの一部を示した図、第5図および第6図はフローチャート、第7図はデータ収集装置のメモリの一部の内容を具体的に示した図、第8図(1)、(2)は印字例を示した図である。1……CPU、5……伝送制御部、6……時計回路、7……メモリ。

特許出願人 カシオ計算機株式会社

第 2 図

第 1 図



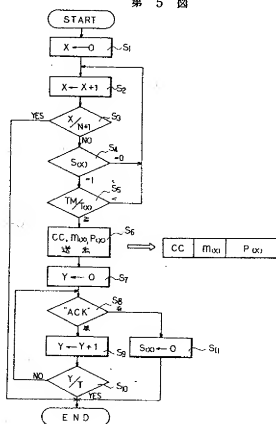
第 3 図

$T_{(1)}$	$m_{(1)}$	$P_{(1)}$	$S_{(1)}$
$T_{(2)}$	$m_{(2)}$	$P_{(2)}$	$S_{(2)}$
⋮			
$T_{(N)}$	$m_{(N)}$	$P_{(N)}$	$S_{(N)}$

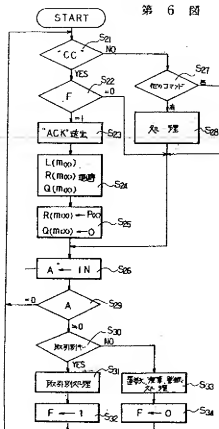
第 4 図

$L_{(1)}$	$R_{(1)}$	$Q_{(1)}$
$L_{(2)}$	$R_{(2)}$	$Q_{(2)}$
⋮		
$L_{(K)}$	$R_{(K)}$	$Q_{(K)}$

第 5 図



第 6 図



第 7 図

17:00	21	300	1 9
-------	----	-----	--------

第 8 図

(1)			
PLU	21	350	
		15:52	
(2)			
PLU	21	300	
		17:10	